

## 15番（小池一哉君）〔登壇〕

おはようございます。15番小池一哉の一般質問を始めたいと思います。

先ほど松尾陽輔議員の敬老会の話が出ました。すばらしいことだと思って聞いておりました、うちも今月の19日が地区の敬老会です。去年私が言った言葉が、「ここにいらっしゃる皆さん全員ことしも会いましょう」ということで祝いを言うたわけですが、それが現実になりそうです。うちの地区で1名の死亡者もなかったということで、ことしは去年に比べてまた二、三人ふえられて、すばらしいことです。

それもこの問題と関係ありますが、ことしから橋下地区もみんなのバスを運行してもろうたことですよ。もう去年からずっと要望があっておりましたが、区長さんたち、それから、老人クラブの会長さんたちのお骨折りで、週2回みんなのバスを回していただいております。本当に大好評でありまして、要するに、嫁さんとか息子どんが一生懸命きばいよるところにきやあもんに連れていけとかいろんな気兼ねもせんでよかと。そういうことで、非常に好感を得て、だれが言うたか知らんですけども、人生の勝者とは健康で長生きすることだそうでございますので、また19日の敬老会には、ますますみんなのバスば利用して我が行きたかときはどんどん行かんばばいという話をしたいと思っております。

そんな中で、まずみんなのバスの質問に移りますが、今、緊急雇用というスタイルでこれを運用されております。これはこれで結構です。100%うちの持ち出しはないわけですので、これはこれで結構ですが、ちょうどお酒が好きなものですから、あるとき酒を飲んどったら、年配の方が「おい小池」ということで近寄ってこられまして、「今は緊急雇用でずっとしていきよろうばってん、緊急雇用ののうなつきどがんとや」と。そして、「将来的に、この事業は非常によか事業。必ずだいでん行く道やもんの、一回は年とるもんの。そのとき必ず利用する時期の来るけん、こいば我々がその年代になったときには定着するごたシステムば今のうちからぼつぼつ考えよってくいろよ」ということでございました。本当にそうだなと私も思いました。やっぱり来た道であって、やがて行く道であります。必ず1回は年をとるわけでございますので、特に今、山内、それから、北方、武内、若木ですか、ここ周辺部にとってはなくてはならないようなバスのシステムになっております。本当にいろんな問題があると思います。それを担当の係の方、一生懸命頑張って一つ一つクリアをなさっておりますので、宮本栄八議員の質問の折にも、来年も緊急雇用が出るよというような話もありました。緊急雇用は未来永劫あるわけじゃないと思いますので、そうなった場合でも永遠に続けていくのかということをもまず執行部のほうに質問をしたいと思っております。よろしくお願ひします。

## ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

みんなのバスについては、1年半前の私の市長選の公約に掲げた三大施策のうちの一つなんです。この思いに至ったのは、私が地域回りをしていたときに、例えば、西川登だったと思うんですけども、そのときは山口昌宏議員と一緒に回ったときに、本当にショックを受けたのは、人と話すのが久しぶりという話で、もうバスものうなっし、お子さんたちも遠くに住まれていて本当に人と話したのは久しぶりと言って、もうそこには、おばあちゃんも80過ぎのおばあちゃんだと思いますけれども、よろよろってなって来んさったとですよ。それで、そのときに「どのくらいぶりですか」って聞いたら、「1週間か10日ぶり」と。それで終わりかなと思ったら、次に西川登の隣のお母さんの家にまた行ったわけですね。そいぎ何て言いんさあかて、「私は6日ぶり」て。そのときに、本当にこれは交通難民どころか、これ言葉が適切かどうかわかりませんが、もう人生難民ですよ。そのやっぱり御自宅に伺ったときに、こいは何とかせんばいかん。

で、翻って今度は、これは1人で行きましたけれども、北方の大峠に行ったときに、あるお母さんが、「もうタクシーの高過ぎる」っていう話。「病院に行かんばいかんばってんが、タクシーに乗らんばいかんけんが病院に行くとは我慢せざるを得ん。そいけん、本当はずっと定期的に飲まんばいかんし、今もう薬の切れとう」って言いんさあかたときに、でもタクシー代が高い、それで、しかも下っていくとはよかばってん上ってくるとの大変っていう話が市内あちこちで聞かれたときに、そのときにこいば、私はもともと役人出身です。過去官僚です。何とか住民の皆さんたちの悲しみとか苦しきとか悩みをすくい上げて、それを政策制度に持っていくのが私に与えられた役割と思ってこの制度化をしました。

そのときに、もう1つきっかけがあります。どういう制度にしようかなと思ったときに、ちょうど選挙の告示のずっと前、追分に山下さんという方がいらっしゃいます。山下さんのところに行ったときに、「こいはぜひせんばいかんばい」って。「そいぎ、どがんやったら私はうまくいくですか」って聞いたときに、こういうことをおっしゃいました。「こいは運転手がかぎばい。運転手がよそからの人じゃだめばい。あるいはそこの地域に根づいとかん人やぎんただめばい」って言うて、ああそうかと思ったときに、みんなのバスの制度をまづ——これ全国で例がありませんので、実証実験として始めました。

これ、私も今ランニングをしていますけれども、例えば、若木町とか回りよったときに、「市長さん、市長さん」と言うて結構乗っとなさあですもんね。そいぎ、「市長さんきつかごたあけんが、みんなのバスにあんたも乗っていかんや」って言いんさあばってん、これは練習になりません。ですので、そういうふうになんか本当に地域住民の皆様方に親しまれているということを踏まえて、私はこれは未来永劫続けていきたいと思っています。とりわけ私が市長である限りは、これは絶対にやめません。

その中で1つ問題点があるのは、先ほど議員から御指摘があったように、緊急雇用というのは1年しかだめなんです。これ国の制度です。1年ぽっきりで泣く泣く退職ばしてもら

わんばいかんわけですよ。そいけん、これは根づかない。特に今は制度が走り始めたところ  
です。ですので、この部分については、私は幾つかハイブリッドでしようと思っています。  
ですので、緊急雇用の枠でされる方、それともう1つは、市の一定の予算の中で、例えば、  
武雄市の場合は非常勤雇用とか嘱託とかの制度があります。それに応じて、例えば、1年じ  
ゃなくて——これは未来永劫というのは無理ですので、例えば、2年契約、3年契約にする  
とか、そういう制度であるとか。で、今度もう一回バスの見直しもちゃんとやります。もう  
こいに数千万円流しようですよ。ですので、みんなのバスを乗りかえていくという意味で、  
もともとある制度、これ国交省の補助金のああですもんね。これをうまく転用するなどして、  
いずれにしても市の財政にさほど負担のかからない形で、今まで結構国が面倒見てくいやん  
さあとばってんが、これはやっぱり我々の責任としてやっていく必要があるだろうと思っ  
ています。

ただ、これを無料でやっていいのかというのはやっぱりあるんですね。あるいは、これは  
名前を挙げませんが、運送業者から請け負わせてくれという話も来とうわけですよ。  
ですので、そういったところ、民の力、あるいはNPOの力を活用しながら、本当の意味で  
のみんなのバスになるように私自身は力を尽くしてまいりたいと思っています。

先ほど松尾陽輔議員のところまで太陽光村の話をしました。これだけじゃやっぱりうまくい  
きません。そこにやっぱり足というのがないかね。ですので、そういう意味で、そういう魅  
力のあるエリアと足というのを地域地域それぞれで、例えば、この地域だったら某タクシー  
会社の委託でよかよねって。例えば、この地域だったら我々の直接今しようじゃなかですか。  
そのみんなのバスでよかよねとかというふうに、だんだんだんだん地域の状態に応じて変わ  
っていくというふうに思っていますので、今ちょうどその分岐点にここはあるかと思いま  
す。

ただ、これは最後にしますけれども、いずれにしても、私が市長である間は絶対にやめま  
せん。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

もう全部言うてもろうたごたあけん。まさに私が聞きたかったとはそこでして、まず運転  
手さんと利用者とのコミュニケーションのびっちりどれとうとですよ。 「ばあちゃん元気か  
ったの、きのう来んやったとは何しよったや」とか、もう全部顔見知りで地元の方ですので、  
そういうコミュニケーションがとれて、タクシーじゃなかけん家のそこにあってもそこまで  
送られんですよ。それは守ってもらいようばってん、そこまでやっぱりちゃんとフォロー  
して送ってもらおうとか、やっぱり地域に根ざしたオペレーターというですか、運転手の方が  
おられますのでそういうことになっておりますが、今市長が申されましたように、緊急雇用

ですから、1年が来たら一応やめてください、これはしょんなんかですね。決まりですのでこれはしょんなかですが、まだそこんたいで市長がいろんなことを考えていただくということですのでよかですが、今13名運転手の方、（発言する者あり）15名、何名かな、部長。

〔つながる部長「13名です」〕

13名の方で——いや、早ようやめんばらんけんたい、おれは——今年度で、3月いっぱいまでで緊急雇用が切れる方が7人と聞いておりますが——でしょう。で、じゃあ13人のうち7人を途中で入れかえんばらんということでしょう、4月まですつとは。そこんたいば、やっぱり市長がおっしゃったように、9月で1回締めますよ、10月から新しいスタイルになりますよと。運転手を1人にするとかいろんなアイデアがあるそうですから、それはもうそれで執行部に任せますが、そこあたりをやっぱり慎重にしてみろうて、人——今震災で皆さんからよう出ようばってん、ことしのキーワードは恐らく「絆」ばんと。ことしの漢字の一字は恐らく「絆」て出るやろうのという話もあいようごと、やっぱり人と人とのきずなのあって初めてこのみんなのバスが順調に行っておりますので、そこんたいば山田部長、しっかり考えてください。

まあ難しかと思うですよ。いろんなタクシー業界からの——やっぱりタクシー業界も話を聞きようぎ、運転手さんが歩合給やけん、ある程度手取りの減ったものとか、そういう話も聞こえんじやなかとですよ。しかし、今さつきからおっしゃったように、大峠のあるおばあちゃん、うち親戚やもん。市長さんようしてくいやった、聞いてくいやったちゅうて私に話のあったと。そいけん、やっぱりさつきからの陽輔議員の質問の中にもあったごと、限られた年金から介護保険取られてもろもろ引かれて手取りは多くはなか。やっぱり息子はごっとい仕事出とる、それはタクシー使うて病院も行きたかばってん、そこを解決したほんなごてよか例でございますので、ぜひこの件は続けていってほしいと思います。

では、次行きます。

筑後川導水計画、これは武雄の方は余り御案内にないと思います。黒岩前議長さんにこれは何年ぐらいに始まった事業ですかというようなことを聞きましたが、おいも宙に覚えんもんかと、そのくらい昔の話だそうですが、やっとな来年は稼働になるということでございますので、せっかくの機会ですので、部長、筑後川導水計画とはどういうものかということをごらつと説明していただければ私も質問がしやすいわけですので、よろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

ざらつとということですのでざらつと説明をしたいと思いますが、本事業は、国営かんがい排水事業としまして筑後川の下流域、これは福岡県の筑後市、あるいは大川市、柳川市、あそこら辺の7市1町、それから、佐賀県の佐賀市、鳥栖市、あるいは杵島3町含め

て6市6町の両県の農地約4万900ヘクタールを対象に、用排水系統を編成して用水不足の解消、あるいは取水の合理化、ひいては農家の経営の合理化、近代化、農家所得の増大を図って地域の発展に寄与するという事で、昭和50年に市町村特別申請事業として施工の申請がなされております。それで、昭和51年度に計画が確定しまして事業に着手したもので、もう約35年を過ぎているというふうなところであります。

その中で、白石平野土地改良事業、ここにパネルを用意しておりますけれども、（パネルを示す）水不足解消、特に白石地区には深井戸で水をくみ上げて地盤沈下が発生しております、こういった地盤沈下の防止をするために、国土交通省が建設をしております嘉瀬川ダムに水源を確保しまして、それからパイプライン、これは径200ミリから600ミリの大きさの管によって、嘉瀬川の右岸地域4市3町、これは佐賀市、小城市、多久市、武雄市、江北町、大町町、白石町の佐賀西部地域の導水路を経て白石平野に排水する延長約49キロの総事業費717億5,700万円の事業となっております。

それで、このパネルの中にしておりますけれども、嘉瀬川ダムが一番上のここにありますが、これが7,100万トンの貯水量がありまして、庭木ダムの約120倍の貯水量というふうなことであります。このダムの水は、さまざまな洪水調整や工業用水、あるいは利水——農業用水とかそういったものに使われておりまして、農業用に利用できる水が2,930万トンということで庭木ダムの約50杯分というふうなことで、これが嘉瀬川ですけれども、この嘉瀬川に放流をしまして、川上頭首工、これは高速道路の川上川のすぐ上流のほうにあるかと思っておりますけれども、あそこから水を取水しまして、小城市、江北町、大町町を経て白石平野に——このピンクの部分の部分が白石平野の地区なんですけれども、ここに送るということになっております。白石平野地区のかんがい面積が7,191.4ヘクタールということで、このピンクの部分がそういうふうな面積になっております。そこで不足する水量が7,079万3,000トンというふうな水を確保するというふうなことであります。

そのうち武雄市に関係します橋下地区、ちょっと少ないですけれども、この分なんですけれども、嘉瀬川ダムの水218.3ヘクタールが受益地というふうなことでなっておりますが、嘉瀬川の水はこのところまで地形的に直接は来ませんので、当地区で不足する70万トンの水、これを武雄市内にあります白石土地改良区の管理しております朝日ダム、永池ダム、焼米ため池から、今までは白石平野に流れていた水を当地区で優先的に取水できるというふうな計画になっております。

今後、事業費に対する市町村の負担、あるいは維持管理に要する費用負担、受益者に求める負担、それから、水利調整、施設の維持管理に要する土地改良区の設立など諸問題が残されているところでありますので、今後、議会での御審議をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上が概要です。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

たった7,000町のうちの200町ぐらいが関係です。でも、これまた黒岩前議長からしかられるかわからんですけど、北方のほうも入ったとですよ、一番最初には。北方町で400町ぐらいの入ったんですが、いろんな事情がありまして、六角川の左岸は除外するよということで、そいぎもう橋下はよか、うちも水はああけんよかばいと言ってしたところが当時の松本町長からしかられまして、橋下は農振地区やけん水のなかってどがんすつかということ、橋下だけはかたっとけと。そして、ある程度の経費については町が責任を持つという約束は森部長、覚えとろう。まだあなた、そのころは係長やったか知らんですけども、やめた岩永浄元支所長なんかはもう課長におったと思いますので、そういうことで、今我々もいよいよ水が来るとなったときの、じゃあどのぐらいの金ば払わんばらんとやと。やっぱりこういう組合員、農家の方は非常に神経質になっておられますので、しっかり負けんごとやってきてくださいよ。白石町の7,000町と200町やけんが、五分五分という話はなかと思うけん。しかも北山から来る水は来んとやけん、うちは。そして、今までの永池ため池、朝日ダム、焼米ため池の水を白石町とよう話し合いながら、分け合いながらでも、1回か2回干ばつがあったぐらいで何とかやってきた経緯もああわけですので、そこんたいで余りにも高負担にならんような交渉をまずお願いをしておきます。

それから、24年の稼働開始ということですが、これは間違いなか。部長、答弁して。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

土地改良事業の管につきましては、もう今年度中に全部管が埋設を済みまして、一部管理運営に支障のないシステムの一部を除いて完了するというふうなことになっておりまして、水は24年4月ごろに大町から渡ってくる山脚導水路というのに重点がされて、それぐらいから水が来るというふうなことで聞いております。

先ほどありましたように、そこら辺の地元負担金の額とか、また、工事費の負担の額とかそういったのがまだ十分詰めておりませんので、先ほど議員からおっしゃられました昔の約束事についてもちゃんと私も覚えておりますので、そこら辺は頑張っていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

そこで、きのう山口良広議員のため池の話が出たわけですが、良広議員はため池は何とか

市で管理して大水の調整をせろというようなことでございますが、私は逆でしてね、今その3つは白石が握っとうとですよ、管理は。焼米ため池、朝日ダム、永池ため池。あいは早う地元で管理権ばやれよと言ひようたです。ということは、この——これまた黒岩前議長からしかられますが、永池ため池の一番三段堤を防災ダムということのでつった経緯がああとですよ。これは山口昌宏議員のつくっとなさあです、山崎建設が。

で、そのときの条件が永池の下流域、要するに橋下地区に大水の来ようけん、そいばとめるためにといういろんな講釈をつけて、その防災ダムがでけたわけですよ。しかし、やっぱり水が足らんということで、当時の6名の区長さんたちで、導水計画が発動したならば、そこに調整樋門があるわけですよ。1メートル50ぐらい、私の背丈ぐらいのとあって、こいを90度にそのときから落としますよという約束事があるという話は知っとうですか、部長。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

永池ダムの防災機能につきましては熟知しておりました。熟知というよりも聞いております。そういうことで、今後、筑後川下流土地改良事業で白石地区に水が来た場合は、防災機能の分については確保するように強く要望をしているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

それば聞きたかったとやけん。今んとば聞きたかったとやけん。それから、ある程度の経費も行政で持つよというのは北方町の議事録に残っとうはずやけん、それも念を押しておきたいと思ひます。

それでは、今の件よろしくお願ひします。

次は暗渠排水です。

ことしから武内、若木、山内で暗渠排水事業が行われております。これは市長さんにずっとごっとうお願ひをしようた事業です。北方地区とかはもう済んどったもんですから、いろんな農家の方から北方の済んどっぎここさん何もせんとやという話、あちこちから話を聞いてお願ひして、ことしこういう事業がありますよということで市長に陳情したところが、よし、やってみゅうさということで快諾されていただいてこの事業が始まりました。

これが農業に対するやっぱり一番の支援策だと思ひますよ。県営圃場整備をしたよ、それから、暗渠排水もしてしもうた、あとは農家の方がその事業を利用して、そこでやっぱり自分たちの知恵と創意と工夫でいろんな作物をつくって所得を上げていくというのが私は筋だと思ひております。

そんな中で、なかなか伸びらんとお願ひしてました。武雄市のある方に聞いたところが、

やっぱりこれは農林事業ですから必ず20%相当の自己資金は発生しますが、その返還ばいきなりしい得んものの、それでちょっと二の足踏んどうとたいという話もありまして、ちょうど——これはもう紹介になります。平成16年から20年にかけて北方町でやったときが、ちょうど同じ問題が出ました。一気に、やっぱり我々も——私もそのとき3町ばかりしとったけんが、そいぎ結構な額になあわけですね。そいぎ、それば一遍に払えというぎ簡単にいかんやったもんですから、JAの当時の組合長の田崎秀俊さん、もう亡くなられましたが、あの方に直訴をいたしまして、そういう資金をつくっております、貸し付け要領、要綱を。きのう確認をしました。まだ残っておるそうですので、低利である程度の条件がありますが、その要領、要綱は残っているということでございますので、森部長、そこんたいは農協の各支所の支所長さんたちに聞いてもらえば要領、要綱ありますので、それで何か二の足踏みよんしゃあとのほんに多かばいという話を聞きました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

今度はその3地区が済んだ後、あと橘——これは山崎鉄好さんの本拠地ですが、あその農家からも、橘はどがんとやという話もなっておりますので、後の計画についてお尋ねをしたいと思ひます。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

今暗渠排水をやっている地区以外の橘町、朝日町、武内町の暗渠排水はどうなんだということですが、確かにおっしゃられるように、湿田で大型機械が導入できないとか、適期の管理、あるいは刈り取りができずに品質にばらつきが出ているというふうなことで、暗渠排水を早急に実施してほしいと要望がなされているのは私たちのところまで来ております。

その中で、麦、米、大豆の適期管理によって生産拡大を図っていくためには、この湿田対策については必要かと思っております。それでも市の独自ではできませんので、国、県の事業を見つけて実施できるように要望をしていきたいというふう考えております。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

橋下のごとぎぶざぶ浸かるとですよね。それでも、夏の天気のこと——今は夏日ですから強かですが、去年おとしか、7月28日、きれいに冠水してしもうた。大豆ばまき直さんばらんごとなつた。しかし、暗渠排水のおかげでもう31日、3日か4日目にはトラクターの入るとですよ。そのくらい乾田化をします。

何度も繰り返しますが、そこまではやっぱり農業振興策として行政がしてもろうたばってん、あとはそれば利用して自分たちでやっっていくぎ何とかなあばいと。特に今の戸別所得補償は直接補償と一緒にすもんね。これはある程度量ばこなさんぎ金来んばいという政策です

ので、ぜひそういう事業があれば、残りの地区にも——もうせんで言う者はほたっとしてよかさい。これはしょんなかもん。おれはもう水田でよかばい、米いっちょつくっていっちょくたいと言うならそれはそれでよかけんが、こういう事業は減多にないと思いますので、推進のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

次行きます。

ストックマネジメント事業——舌かむなよと言われようばってん——なかなかこの予算がつかんとですね。去年ですか、水門で、やっぱりもう部落の役員の方ほとんど高齢になっておられまして、排水、揚水の折に、ある人が水門からすべり落ちて市民病院に担ぎ込まれたという事故もありました。とにかく水門が重たかもんね。石橋部長がうんうんと言われるけん、したことああとやろう。1回に1センチぐらいしか上がらんじゃなかかな。

あの大雨が来て雷が鳴って、そのとき六角川に向けて放出ばせんばらんというとき、真夜中に、やっぱり区長さんが——うちは76歳かにや。で、私も必ずたたき起こされますので行きますが、あの作業の軽減を何とかなかやというようなことでやっておりましたら、このストックマネジメントがあるよということ今進めておりますが、なかなか遅々として進まん。県の予算もなかということでございましょうが、幸いうちとか橋あたりは何とか予算がついているようでございしますが、あとの地区については、なかなか土地改良というのがどこでも解散してしもうて受け皿がないというのが一つの現状だそうでございます。

隣の白石町に聞きましたところが、白石町は旧3町で1つの土地改良だそうですね。ですからしっかりした受け皿があるということで、すごい量の水門の改修ですか、しかも、何とか、きょうちょっと電話で聞いて、直接聞いとらん、見とらんですが、もう今までの力の半分でよかばいと。そいけん、揚水、排水のときにはさつとさるつよという話も聞いておりますので、橋下土地改良区もあと二、三年で解散になりますし、そうなったときの受け皿というのはどがんふうに考えておられるかなということです。よろしくお願ひします。

**○議長（牟田勝浩君）**

森営業部長

**○森営業部長〔登壇〕**

土地改良区につきましては、圃場整備が実施されたときに設立されまして、圃場整備完了後また解散されたというふうなことで、現在、川登と武雄東部、橋下の3つの土地改良が今実際あるというふうなことになっております。3地区の土地改良区については、各事業の受け皿にも機能を有しておるところでございますけれども、ほかに地区内の樋門とか水路とかそういった管理のほうも良好に保たれているというふうな思っておるところです。

そういうことで、土地改良の役割は確かに重要と考えておりますけれども、未組織の地域も含めたところで再度土地改良区の整備についても調査研究をしていきたいというふうな考えております。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

県営圃場整備が済んでから30年、40年たって、やっぱり揚水ポンプなり樋門なりがほとんど老朽化しております。これをまた自己資金でやれと言うたら膨大な金がかかりますので、土地改良でストックマネジメントの中でやっていくのが一番、時間はかかるばってんせいしかなかなということなので辛抱強くやっておりますので。

それとあわせて、ことしで農地・水、切れましたよね。一応5年間の期限が過ぎまして、来年からまた5年間、自公政権の時分はやるて言いよったですよ。前期5年、後期5年と言いよったばってん、これは全然情報は入らんですか。9月末までに予算要求のなかぎわからんかにや。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

農地・水の24年度からの事業についてですけれども、現在のところ、24年度から実施するというふうな情報はまだ入っておりません。

〔15番「入っとらんでや」〕

はい、そういうことです。継続してもらえるように働きかけはやっているところであります。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

市長、これはやっぱりとにかく訴えてください。この農地・水の予算だけでもすごかと思えますよ。5年間で武雄市におりてくる金、こいば今度はまたうちの一般財源からせんばらんというぎけた違いになると思いますので。本当にこの農地・水の予算というのは、北方町の時分は一般土木ちゅうてあいよったとですよ。それである程度はフォローをしてきたですが、それで何とか維持管理はやってきたですが、今度は農地・水でそういう維持管理をやっておりますので、ぜひ強く働きかけていただきたいと思っております。

最後です。戸別所得補償についてお尋ねをいたします。

自公政権の経営安定対策から今度は戸別所得補償ということで、ことしが1年目やったです。本格的実施ということで。しかし、御案内のとおり武雄地区の小麦についてはほとんど全滅状態ということで、これは自己責任ですので、自分が共済金とかなんとかやってせにやいかんですが、この制度が、23年度にきた営農継続支払いは22年度の面積か実績でどちらか少ないほうがことし来たわけですよ。橋下だけでは3,200万円ほど来ました。武雄市全体

ではどのくらい来たか知りませんが、じゃあことしの——来年もほぼ面積は変わらないと思います。でも、実際として実績ががた落ちですよ。どちらか少ないほうとなっておりますから、ことしただ橋下だけで来た金が3,200万円ですが、調べてくいとってんっておい頼んかったけんが、武雄市全体でことし幾ら来たよ、来年はことしの実績に合わせてすぎどのくらい来るよという数字がわかれば教えてください。

○議長（牟田勝浩君）

森営業部長

○森営業部長〔登壇〕

農業者戸別所得補償制度の数量払いのことですけれども、農業経営のための最低限の経費分として10アール当たり2万円を早期にということは、大体8月ぐらいに交付されるというふうなことでございまして、今年度の作付面積確認がなかなか難しいために前年度の面積に基づいて支払われる仕組みというふうなことで、数量払いの交付対象を超えないように前年度の生産面積と当年度の生産面積いずれか小さい面積を交付対象とするというふうな制度になってございまして、確かに23年度の小麦につきましては、6月の豪雨によって多大な被害——被害面積が342ヘクタールというふうなことでございまして、収量も少なくなっているというふうなことでございまして、

24年度の小麦の営農継続支払いについては、23年度の小麦の収量が少ないために、多分営農継続支払いはできないというふうなことになるかと思っておりますけれども、実際の数値ですけれども、23年度は22年度の生産基盤をもとに交付されてございまして、武雄市全体で1億2,100万円の交付になっているところで、

それから、24年度につきましては、これはあくまでも見込みですけれども、全市で8,600万円が支払われる見込みであると。特に橋下では1,200万円程度に落ちるというふうなことになるかと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

武雄市全体でも4,000万円ぐらいが少なくなると。そのうちの2,000万円が橋下たいね。3,200万円ことし来た金はですね、麦ば160町つくろうで大体3,100万円ぐらいかかあとですよ。共乾代は別ですよ。肥料、農薬、共済金もろもろで経費として3,000万円、うちは集落営農で1本化してございまして、大体3,100万円ぐらい毎年変わらん金がかかってございまして、あいだけ肥料も抑えて安かとは使うてやいようですが、それでも3,100万円ぐらいかかります。それが1,200万円しか来んということは、盆に金持って農協さん行かんばらんということですよ。こいじゃあやっぱりいかんけんが、JA関係もやっぱりいろんなところで、佐賀県、福岡県、それから熊本の一部ですね、こういうときは特例をつくってくださいよとい

う陳情もしております。これは市長、ぜひ関係各町に、やっぱり営農継続支払いと一たん最初2万円と言うたない2万円やあぎよかっちゃもん。そいばあだこうだと言うて何か恩着せたと言わんで、ぜひ何かの機会に市長からもお願いをしたいと思います。今の法律がそがなければ我々としてはどがんもされんけん。しかし、やっぱり麦つくってお盆に金持っていかなばらんというようなことだけはぜひやめさせたいと思いますので、お願いしたいと思います。

最後に、市長にT P Pについて聞きたいと思いますが、また11月のA P E Cが開催されるのに向けていろんな動きがあっておりますが、去年、武雄市議会でも慎重な行動を、慎重な判断をとというようなことで意見書の採択も見たところでございますが、いつも議長も申されますとおり、1964年に材木の輸入が解禁されて今のさまでしょう。今、山ば手入れする者は一人でんおらんですよ。よか例が、うちの隣の息子が去年おとしやったかね、暇やった——暇じゃなからうばってんが、4トンのユニック車いっぱいヒノキを切り出して、ちゃんと胴切りして伊万里の市場に持って行って、振り込み金額が8,000円だそうです。4トン車いっぱい8,000円。それを切り出して引いて、そしてユニック車のレンタル料が8,000円。ほんただ働きやったということです。それと同じことが農村部でも私は起きると思います。もう田んなかは荒れてしまうと思いますので、市長の考えを聞いて最後にしたいと思います。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

最初私はT P Pに賛成でした。まず私の立場を言うと、今T P Pには反対です。というのは、4月の県議選のときに稲富正敏県議候補と一緒にいろいろ回りよったときに、やっぱり材木の話の出てきたとですよ。そのときに、昭和36年の材木の自由化ですよ、あれでもう全部林地がだめになった、森林がだめになったということと言われて、T P Pはその二の舞になると。実際そうなんです、調べてみたときに。で、私はT P Pというのは、よく言われるのは、自由貿易体制の一つの形と言われるじゃなかですか。でも、これ考えてみたときに、全部加盟すっぎんたそれは話は別ですよ。ですが、アメリカを中心として結構小国ばかりですもんね。それで加わるとが日本なんです。日本は大国ですよ。消費大国でもあるし輸出大国でもある。そういったときに、これは新聞に書かれるかも私知りませんが、アメリカの植民地ですよこれ、T P Pを進めるというのは。（発言する者あり）ちょっと江原議員いいですか。私、質問に答えているんですよ。あなたに答えているわけじゃないんですよ。（発言する者あり）ちょっととめてください、本当。

**○議長（牟田勝浩君）**

市長、続けてください。

**○樋渡市長（続）**

はい、続けます。

それで、何でしたっけ、ちょっと。

○議長（牟田勝浩君）

植民地のところから。

○樋渡市長（続）

ちょっと非常に私は繊細です。

その上で、じゃあ農業産品と、もう1つは工業製品ありますよね。じゃあこれは工業製品に利となるのかといたら、そんなことはないですね。これはあくまでも、やっぱりいかに自由化しても、今為替の問題があるんですよね。これどんどん円高あるいはウォン安が進んでいくと、どんなに自由貿易体制に組み込んだにしても、これはある意味焼け石に水です。そういう意味からすると、やはり日本の国力を自立可能に高めるためにはTPPとか乗ったらだめですね。私はきのう一晩考えましたよ。考えて新聞ば見たら、放言で書いてあったです。ですので考えました。ですので、私の立場はきょうからTPP反対です。

○議長（牟田勝浩君）

15番小池議員

○15番（小池一哉君）〔登壇〕

農業をやっている者としては本当に心強い最後の答弁を聞いたところで、ぼろが出んうちにやめたいと思います。ありがとうございました。

○議長（牟田勝浩君）

以上で15番小池議員の質問を終了させていただきます。